

別院コース詳細

① 天寧寺(てんねいじ)



中区門前町 3-21

曹洞宗の寺院だが、本堂の西隣に建つ三宝殿が有名。
三宝荒神は三方荒神とも書き、カマドの神、土の神として恐れられた。織田信長がわが子の無事成長を祈願した故事にちなむ「守鶏(しゅけい)絵馬(おんどり、めんどりの絵馬)」の奉納祈願は、現在も盛んである。

② 西別院(にしべついん) (本願寺名古屋別院)



中区門前町 1-23

浄土真宗本願寺派。西本坊、西本願寺掛所、西掛所、西別院などと称する。本家は「お西」。全国的には寺院数も多い。
明応年間(1500 頃)、本願寺 8 代目門主・蓮如の子である連淳が長島に建てた願証寺にはじまり、名古屋移転後の享保 2 年(1717)、別院になった。

③ 日置神社(ひおきじんじや)



中区橋一丁目 3-21

延喜式神名帳には愛知郡日置神社とあり、その創建は明らかではないが、「日置」の名は古代、暦象をつかさどった日置部にちなむもの。深い緑に包まれて、境内はいかにも神鎮まります感じがする。
織田信長が桶狭間の戦勝のお礼にマツ 1000 本を植えたとい、以後「千本松日置八幡宮」とも呼ばれた。

④ 妙善寺(みょうぜんじ):(七面宮)



中区橋一丁目 17-15

2 代藩主・光友の腫れもの平癒祈願のため、名古屋の豪商茶屋長いが刻んだ七面女神像をまつる。七面宮の由来は、光友自らが自筆の額を与えたことによる。
山号は七面山、日蓮宗の寺だが、七面宮、七面様、七面さんなどと呼ばれ、七面女神像とは切っても切れない関係の寺である。

⑤ 栄国寺(えいこくじ)



中区橋一丁目 21-38

このあたりは千本松原という刑場で、寛文 4 年(1664)には、200 余人の切支丹(キリシタン)を処刑した。この寺は、寛文 5 年(1665)2 代藩主・光友によってそれらの菩提を弔うために創建された。

境内には千人塚の碑石や、切支丹関係の遺品なども蒐集(しゅうしゅう)してある。

本尊阿弥陀如来像は名古屋三大仏のひとつで「火伏の弥陀」として信仰が厚い。

① 長栄寺(ちょうえいじ)



中区橋一丁目 14-37

曹洞宗、金剛山と号し、三淵正眼寺の末寺。
この寺を有名にしているのは、「蘿塚(らづか)」と呼ばれる碑。これは横井也右の従僕であり俳句の道では門人でもあった石原文樵が、明和 6 年(1769)にその恩義に報いるため建てたもの。也右が好んだツタ(蘿)がからませてあったことから蘿塚とよばれた。

昭和初期に修復したため、今は昔の姿ではない。

② 東別院(ひがしべついん)、⑧ 古渡城跡(ふるわたりじょうあと)



中区橋二丁目 8-55

<東別院>

世に言うところの「お東さん」の別院である。名古屋地方はお東さんの大地盤。この別院も全国有数の大別院の偉容を誇る。

元禄 3 年(1690)、2 代藩主・光友から、古渡城跡を与えられ堂宇を建てたのが始まりで、文政 5 年(1822)再建した本堂は 36 メートルの高さでそびえ立っていたが、昭和 20 年戦災で焼失した。

現在の堂宇は昭和 43 年に再建したもの。

<古渡城跡>

天文 3 年(1534)、織田信長の父・信秀が構築したのが古渡城である。信秀は今川氏から奪った那古野城にいたのだが、那古野城は信長に任せ、この城に入った。しかし、信秀はさらに末森城を築いて入り、信長も清洲城に入ったため廃城となった。

いま、東別院などがある一帯が古渡城跡で、東北隅のあたりは城跡の面影をとどめている。

⑨ 下茶屋公園(しもちゃやこうえん)



中区橋二丁目 9

東本願寺名古屋別院の境内・東北隅のあたりは、天保年間に建築された別院新御殿の北庭だった。池あり、築山ありの起伏に富んだ回遊式の名園として知られていた。しかし、第二次世界大戦の戦火をうけて荒廃した。その後、ようやく往時の面影をしのぶまでに修復し、公園として公開されています。